

竹内和順
議員



● 平泉寺の世界遺産登録について
● 勝山市のおもてなしについて

一般質問

問 平成元年に平泉寺の史跡調査事業が始まり、平成18年に世界遺産の国内暫定リストへ登録申請したが、継続審議として見送られた。平泉寺や旧玄成院庭園は、世界遺産の審査基準となる国の文化財指定を受けている。残る越前禅定道の条件整備が必要とされている。今後の禅定道の復旧整備体制を伺う。

答 越前禅定道の整備は、平成11年から12年にかけて福井県が平泉寺から白山伏拝までの登山道約7kmを整備している。現在、福井県ではこの時に整備した階段や案内板の老朽化度合いや、昭和43年の福井国体時につけられ現在通ることが出来なくなっている白山伏拝から小原区の弘川までの約1kmの区間の再整備が可能かどうかを調べるため、平成28年度から31年度までかけて、これら越前禅定道の整備を計画している。

勝山市としては、早く白山まで越前禅定道を歩いていけるよう、更に環境省や福井県にはたらきかけていくとともに、土地所有者とも十分に相談し、この事業の進捗に努めていきたいと考えている。

問 勝山市は観光産業等が盛んで、国体開催に伴ってさらに多くの方が勝山市に訪れる。まず目にするのが道路状況と景観。県において緑化マニュアルが策定されている。市におけ

る歩道等の街路樹をどのように捉え、管理体制を整えているのか伺う。

答 勝山駅から市街地の入り口となる元禄線のほか、多くの路線に街路樹が植樹されている。これらの街路樹は、平成23年12月に策定した質の高いまちづくりを指す「勝山市景観計画」において、道路の付属物である街路樹も「勝山固有の風景に美しく調和した施設景観」の1つとして位置づけている。

市では、これらの街路樹を道路パトロールの際に確認し、市職員による下枝打ちや下草刈りなどの日常管理を行うと共に、福井県緑化マニュアル（街路樹編）なども参考に1年あたり3年毎に専門知識を持った造園業者により、街路状況に応じた樹高・樹形となるよう剪定している。

元禄線などでは地域住民の方々が自主的に植樹の草むしりを行ったり、花を植えていただいており、道路管理者だけでは行き届かないきめ細かな美化活動を行っている。これらの活動を手本として他の路線についても地域住民と連携しながら街路樹の管理を行っていききたい。

今後も、福井県、地域住民と協力し、市民に親しまれ、来訪者を引きつける勝らしい街路景観を育てていきたい。

山田安信
議員



● 市民福祉を充実する施策の意義について
● 国保税や保育料を値下げすることについて

一般質問

そのほかの質問
・平成28年度予算案について
・定住化促進事業について

問 「国保税の値下げなどは目先の利益だ」などという人は市民福祉充実の意味を理解していない。保育料軽減、子ども医療費助成、定住化支援など市民生活を応援する事業の「ねらい」と「効果」は何か。市長は市民負担軽減を目先の利益と考えているのか。

答 地域福祉の充実には地方自治体の重要な役割であり、地方自治体は住民の地域生活を保障する包括的な仕組みを整備する使命を担っているとの認識のもとに、社会福祉の専門的サービスの提供だけでなく、医療・保健の連携、所得補償、住宅政策等による財政的援助や様々な支援策を実施している。これらの施策は、経済学的には所得再分配の機能を持つとともに、地方自治体での人口減少対策や社会的流失の防止などに繋がる長期的な戦略でもあると考えている。

問 ①高すぎる保険税という国保の構造問題を緩和するため、国、県、市が新たな公費を投入したが、勝山市での見込み額はいくらか。この財源を活用して国保税を値下げすべきではないか。

答 ①平成26年度の保険者支援金の実績は、約1,465万円、平成27年度は約3,936万円であり、平成28年度は約4,174万円を見込んでいる。平成27年度の国の1,700億円公費投入による保険者支援制度拡充にともなう影響額は、単純に計算して、平成26年度との差額分の約2,471万円と考えられる。しかし、全額が増額になるわけではない。

平成29年度の保険税については、平成27年度から28年度への繰越額、基金の残高、保険給付の支給見込み、更に国の制度改正や政策など、総合的な観点から、適正な額を検討していく。

②勝山市では、これまででも国の徴収基準より大きく減額した保育料としているが、国の制度改正に合わせて、市の保育料についても、現行制度の金額からさらに減額措置を実施する。

③平成27年度における保育料の各階層の金額については、県内他市と比較しても決して高いものではない。特に、市民税所得割が非課税であったり、かつ、均等割が課税されていない世帯の保育料の金額は、9市で最も低い金額となっている。

町より高い場合があるので、保育料の値下げを検討すべき。

問 ①平成26年度の保険者支援金の実績は、約1,465万円、平成27年度は約3,936万円であり、平成28年度は約4,174万円を見込んでいる。平成27年度の国の1,700億円公費投入による保険者支援制度拡充にともなう影響額は、単純に計算して、平成26年度との差額分の約2,471万円と考えられる。しかし、全額が増額になるわけではない。

平成29年度の保険税については、平成27年度から28年度への繰越額、基金の残高、保険給付の支給見込み、更に国の制度改正や政策など、総合的な観点から、適正な額を検討していく。

②勝山市では、これまででも国の徴収基準より大きく減額した保育料としているが、国の制度改正に合わせて、市の保育料についても、現行制度の金額からさらに減額措置を実施する。

③平成27年度における保育料の各階層の金額については、県内他市と比較しても決して高いものではない。特に、市民税所得割が非課税であったり、かつ、均等割が課税されていない世帯の保育料の金額は、9市で最も低い金額となっている。